

目 次

はじめに.....	1
・ 背景：日本語教育における学習者層の変化と日本語教育.....	1
・ 二字漢語の透明性.....	2
・ 日本語学における「二字漢語の透明性」.....	2
・ 本研究の特徴.....	3
・ 本研究の構成.....	4

第 1 部 二字漢語の透明性の実態

1 章 「二字漢語の透明性」とは.....	9
1.1 はじめに.....	9
1.1.1 本章の概要.....	9
1.1.2 本研究の研究対象.....	10
1.2 先行研究.....	11
1.2.1 語の有縁性と透明性.....	12
1.2.2 二字漢語の有縁性.....	13
1.2.3 専門語における漢語の透明性.....	15
1.2.4 二字漢語の意味とその構成漢字の意味の関連性.....	15
1.2.5 漢字の表意機能.....	16
1.3 本研究における「二字漢語の透明性」.....	17
1.3.1 本研究における定義.....	18
1.3.2 透明性の3分類と漢語.....	20
1.3.3 漢語の透明性と日本語教育.....	22

2章 辞書の記述に基づく二字漢語の透明性	25
2.1 本章の概要	25
2.2 調査課題	25
2.3 先行研究	28
2.4 調査方法と手順	29
2.4.1 方法：辞書の語義の説明を利用する方法	29
2.4.2 調査対象とする二字漢語	30
2.4.3 二字漢語と構成漢字の抽出方法	30
2.4.4 使用した辞書	31
2.4.5 調査対象とする語義と複数の語義の扱い	32
2.4.6 調査手順	32
2.4.7 調査方法の検証	34
2.5 結果と考察	37
2.5.1 分析1：書き言葉における高頻度語の透明性の割合	37
2.5.2 分析2：旧日本語能力試験の語彙における二字漢語の透明性の傾向	38
2.5.3 分析3：母語話者の判断による透明性ととの比較	40
2.6 本章のまとめと課題	43
2.6.1 本章のまとめ	43
2.6.2 本章の課題	44
3章 学習者と母語話者による透明性の判断傾向の相違	45
3.1 本章の概要	45
3.2 調査課題	46
3.3 先行研究	47
3.4 調査概要と手順	48
3.4.1 調査の概要	48
3.4.2 調査の手順	48
3.4.3 調査対象語の選択	49
3.4.4 調査協力者	50
3.4.5 質問項目	51
3.4.6 調査方法	53
3.5 全体の調査結果	53

3.5.1	学習者の既知語数	53
3.5.2	結びつく場合の意味に見られた回答	54
3.6	分析1：二字漢語の透明性の判断における相違	55
3.6.1	学習者のグループ分け	55
3.6.2	透明性の判断傾向の比較	57
3.7	分析2：二字漢語とその構成漢字の意味の結びつきの判断における相違	60
3.7.1	学習者のグループ分け	61
3.7.2	調査対象語(30語)各語における既知の人数	61
3.7.3	意味の結びつきにおける判断傾向の比較	62
3.7.4	学習者と母語話者で判断の傾向が似る漢字と異なる漢字	63
3.7.5	二字漢語の意味とその構成漢字の意味とが結びつく際の意味の比較	68
3.8	本章のまとめと課題	74
3.8.1	二字漢語の透明性の判断における相違	74
3.8.2	二字漢語とその構成漢字の意味の結びつきの判断における相違	75
3.8.3	日本語教育への示唆	75
3.8.4	分析の課題	76
3.8.5	調査方法の課題	77
3.8.6	二字漢語とその構成漢字の提示の順番における課題	77
3.8.7	尺度法との違い	78
4	意味の結びつきと出現頻度による構成漢字の分析	85
4.1	はじめに	85
4.1.1	本章の概要	85
4.1.2	構成漢字の結付率と出現頻度による特徴	86
4.2	分析方法と調査課題	87
4.3	先行研究	87
4.4	調査概要と手順	88
4.4.1	調査概要	88
4.4.2	調査データ	91
4.4.3	調査手順	92
4.4.4	二字漢語における構成漢字の意味	94

4.5	分析1：母語話者の結付率の高低によって分類した構成漢字の特徴	95
4.5.1	グループ2（母語話者の結付率が30%未満）の構成漢字	97
4.5.2	グループ1（母語話者の結付率が100%）の構成漢字	98
4.6	分析2：学習者下の結付率の高低によって分類した構成漢字の特徴	99
4.6.1	グループ3（学習者下の結付率が90%以上）の構成漢字	99
4.6.2	グループ4（学習者下の結付率が30%未満）の構成漢字	101
4.7	結付率と出現頻度による構成漢字の分類の試み	104
4.7.1	母語話者と学習者下の結付率の関係	104
4.7.2	構成漢字の分類の目安	106
4.7.3	分類結果	107
4.8	本章のまとめと課題	108
4.8.1	本章のまとめ	108
4.8.2	本章の課題	109
5	章 二字漢語とその構成漢字の意味の結びつきにおける「伸介語」の検討	111
5.1	はじめに	111
5.1.1	本章の概要	111
5.1.2	2章の調査における伸介語	112
5.2	伸介語に関する先行研究	113
5.2.1	漢字の表意機能の分析からの指摘	114
5.2.2	二字漢語の語構成の分析からの指摘	114
5.2.3	二字漢語の造語法の分析からの指摘	115
5.2.4	先行研究間の相違点	116
5.2.5	先行研究と本研究の相違点	116
5.3	本章における伸介語	118
5.3.1	構成漢字の意味と二字漢語の意味が結びつく際に伸介語が用いられるパターン	119
5.3.2	母語話者の透明性の判断における伸介語（3章調査より）	122
5.3.3	二字漢語とその構成漢字の意味の結びつきにおける伸介語の機能	123
5.4	伸介語と日本語教育	124
5.5	本章の調査課題	125
5.6	調査方法と手順	126

5.6.1	辞書の記述を用いる方法	126
5.6.2	使用した辞書および辞書説明文	127
5.6.3	調査データ	127
5.6.4	調査手順	128
5.7	結果：調査対象漢字とその仲介語率	129
5.7.1	調査対象漢字	129
5.7.2	仲介語率による調査対象漢字の分類	130
5.8	分析1：仲介語を表す構成漢字の位置の傾向	131
5.9	分析2：仲介語として多く用いられる語	134
5.9.1	仲介語の語数	134
5.9.2	仲介語と意味が対応する二字漢語数および仲介語の掲載辞書冊数	135
5.9.3	多くの二字漢語の意味と対応する仲介語	136
5.9.4	二字漢語1語当たりの掲載辞書数が多い仲介語	138
5.9.5	1字目と2字目の両方の漢字が二字漢語の意味と対応する仲介語	140
5.10	分析3：構成漢字と仲介語の意味の関係	141
5.10.1	「分類語彙表DB」を用いた分析方法	141
5.10.2	構成漢字と仲介語の中項目一致の例	142
5.10.3	「分類語彙表DB」による仲介語と構成漢字の意味の一致の程度	143
5.10.4	「分類語彙表DB」の中項目が一致しない仲介語と構成漢字	144
5.11	分析4：二字漢語と仲介語の頻度関係	146
5.12	本章のまとめ	149
5.12.1	仲介語の特徴	149
5.12.2	二字漢語とその構成漢字の意味の結びつきの関係	150
5.13	本章の課題	153
5.13.1	仲介語の設定の課題	153
5.13.2	調査方法と分析の課題	154
6	高頻度の二字漢語の透明性と表記の傾向	157
6.1	はじめに	157
6.1.1	本章の概要	157

6.1.2	二字漢語の透明性と表記	157
6.2	先行研究	159
6.3	本章の研究課題	160
6.4	調査方法	160
6.4.1	調査データ	160
6.4.2	調査対象の二字漢語	161
6.4.3	集計方法1：表記の分類	162
6.4.4	集計方法2：二字漢語の透明性の分類	163
6.4.5	手順	163
6.5	結果	164
6.5.1	全体の漢字表記の傾向	164
6.5.2	品詞別の漢字表記の傾向	164
6.5.3	漢字表記率と透明性との関係	165
6.6	副詞の表記と透明性の傾向	167
6.6.1	高頻度順上位3,000までの副詞の表記と透明性	168
6.6.2	レジスターによる表記の違い	170
6.7	本章のまとめと課題	173
6.7.1	本章のまとめ	173
6.7.2	本章の課題	174
7	7章 二字漢語の透明性の通時的変化	177
7.1	はじめに	177
7.1.1	本章の概要	177
7.1.2	透明性の通時的変化	178
7.2	宮島(1969)による「郵便報知」と「雑誌90種」の比較	178
7.3	調査課題	182
7.4	宮島(1969)の調査方法	184
7.5	本章の調査方法と手順	185
7.5.1	調査データ	185
7.5.2	調査対象の二字漢語と漢字	186
7.5.3	手順	186
7.5.4	略語の扱い	188
7.6	結果1：「雑誌90種」と「新聞」の比較(表7-5, 表7-6)	189

7.7	結果2:「雑誌90種」と「知恵袋」の比較(表7-7, 表7-8)	190
7.8	結果3:「郵便報知」と「雑誌90種」, 「雑誌90種」以降の比較	192
7.8.1	比較方法	192
7.8.2	比較結果	193
7.9	結果4:「雑誌90種」以降の「訓による用例」の減少傾向の検討	195
7.10	本章のまとめと課題	198
7.10.1	本章のまとめ	198
7.10.2	本章の課題	199

第2部 二字漢語の透明性の日本語教育への応用

8	第二章 二字漢語の透明性の活用による負担軽減の方法	205
8.1	本章の概要	205
8.2	先行研究における二字漢語の透明性の記述	206
8.3	本章の研究課題	206
8.4	二字漢語の総合的理解と透明性	207
8.4.1	学習者と母語話者の判断傾向の相違(第1部3章の結果より)	207
8.4.2	二字漢語の意味, 構成漢字の意味, 透明性の三者の関係	211
8.5	漢字教育における「数の多さ」による学習者の負担	212
8.5.1	漢字学習を困難にする要因	212
8.5.2	本研究での「数の多さ」の捉え方	215
8.6	「数の多さ」の負担軽減を目的にした先行研究	215
8.6.1	漢字に学習の優先度をつける研究	217
8.6.2	「字形の複雑性」による負担を軽減することを目的とした研究	221
8.6.3	一度に学習する内容を減らすことによって負担軽減を図る研究	222
8.7	二字漢語の透明性による負担軽減の方法	225
8.8	本章のまとめ	227
9	第三章 透明性の調査結果を活用した学習案の検討	229
9.1	本章の概要	229
9.2	本研究における二字漢語の透明性を活用した負担軽減の方法	230
9.3	本章の研究課題	230

9.4 「結付率と出現頻度による構成漢字の分類の試み」(4章)の活用	231
9.4.1 「構成漢字の分類」(4章4.7表4-6, 表4-8)の概要	231
9.4.2 結付率による「学習の順序」の案	234
9.4.3 分類別に見た「漢字1字の学習内容」の案	234
9.5 仲介語の検討結果の活用	240
9.5.1 5章での仲介語の設定	241
9.5.2 仲介語の漢字教育への活用	242
9.5.3 「漢字教育に活用できる仲介語リスト」の作成	242
9.5.4 リスト作成の手順	243
9.5.5 作成結果1: 語数	243
9.5.6 作成結果2: 多くの二字漢語に用いられる仲介語	245
9.5.7 「漢字教育に活用できる仲介語リスト」の利用方法と課題	247
9.6 本章のまとめ	248
9.7 本章の課題	248
10章 二字漢語の透明性リストの作成	251
10.1 本章の概要	251
10.2 先行研究	252
10.3 研究課題	252
10.4 透明性リストに掲載する情報	253
10.5 調査方法と手順	257
10.5.1 調査方法	257
10.5.2 二字漢語とその構成漢字の意味の結びつきの分類方法	257
10.5.3 調査対象語と漢字	258
10.5.4 調査対象から除外した語	259
10.5.5 使用した辞書	261
10.6 二字漢語の透明性の分類	261
10.6.1 分類の手順	261
10.6.2 本リストにおける「二字漢語とその構成漢字の意味の結びつき」の捉え方	263
10.7 作成結果	267
10.7.1 調査対象語数と調査対象漢字数	267
10.7.2 二字漢語の透明性の3分類と構成漢字の結付率	267

10.8	リストの情報の活用案	267
10.8.1	市販の漢字教材と組み合わせた利用案	268
10.8.2	学習目標の語に対する漢字教育での利用案	268
10.8.3	読解活動を通じた語彙教育	270
10.9	本章のまとめ	271
10.10	本章の課題	271
10.10.1	意味の結びつきの判断における課題	271
10.10.2	リスト作成の課題	272
10.10.3	学習者の下位群を想定した透明性リスト	273
11	章 透明性を利用した「初級漢字語リスト」の教材案	277
11.1	はじめに	277
11.1.1	本章の概要	277
11.1.2	教材案作成の背景	278
11.2	本章の研究課題	279
11.3	本教材案における語とその構成漢字の意味の結びつき	279
11.3.1	語と漢字表記を結びつける「要素語」	279
11.3.2	学習者の既習の知識の活用	281
11.4	作成手順	281
11.4.1	初級漢字語の選定	281
11.4.2	「初級漢字語リスト」の作成	283
11.5	教材案の作成	289
11.5.1	各テーマの基本的な練習の流れ	289
11.5.2	語と漢字の意味が結びつきにくい語(資料 11-2 7)	290
11.6	応用練習とリストの活用	293
11.6.1	漢字の読みへの応用	293
11.6.2	未習の語への応用	293
11.6.3	「初級漢字語リスト」の活用	294
11.7	本章のまとめと課題	294
11.7.1	本章のまとめ	294
11.7.2	本章の課題	294

おわりに：まとめ、今後の課題・展望	297
・本研究で明らかになったこと	297
・二字漢語の透明性の活用案として示したこと	299
・本研究の課題	301
・今後の展望	302
引用文献	303
調査資料	309
初出一覧	311
あとがき	313
事項索引	315
漢字・漢字語彙索引	317

はじめに

本研究は、二字漢語の透明性の実態を明らかにし、二字漢語の透明性をどのように日本語教育に活用できるか、その可能性と方法について示すことを目的とするものである。

・背景：日本語教育における学習者層の変化と日本語教育

近年、日本語教育では母語の文字体系に漢字を持たない学習者の割合が増加している。2019年に行われた調査では、日本国内で学ぶ外国人留学生数の国別の割合は、1位が中国(39.9%)、2位がベトナム(23.5%)、3位がネパール(8.4%)で、ベトナムとネパールの2か国の合計人数は約10万人となり、国内の外国人留学生数の約3分の1を占めるが、6年前の2013年に行われた同調査では、ベトナム(4.6%)とネパール(2.4%)の合計は約1.1万人で国内の外国人留学生数の約7%であった(日本学生支援機構2014, 2020)。このような学習者の国籍の変化を背景に、学習者に対応した日本語教育の必要性が一層高まっている。

母語の文字体系に漢字を持たない学習者にとって、漢字学習は日本語の学習で困難を感じる点の1つに挙げられる。表記体系に平仮名、片仮名、漢字の3種類の文字が用いられる日本語において、漢字は実質語を表す。そのため、漢字は文章を理解する際の支えになる。しかし、常用漢字は2,000字以上あり、また複数の漢字を組み合わせ形成される語はそれ以上の数があるという「数の多さ」は学習者にとって大きな負担となっている。

・ 二字漢語の透明性

本研究ではこの困難点に関し、二字漢語の透明性、すなわち、二字漢語の中には、二字漢語の意味とその構成漢字の意味が対応して結びつくものと結びつきにくい語があることに着目する。漢字は表語文字とも呼ばれ、1字ごとに意味を持つ一方で、漢字2字から成る二字漢語は語としての意味を持つ。「国外」や「飲酒」のように語の意味と構成漢字の意味が結びつくものがある一方で、「経済」や「精神」のように、現在用いられている一般的な意味では、構成漢字ごとに分解して語の意味を捉えることが難しい語もある。漢字の意味を理解する目的は語の意味を理解することであるとすれば、漢字教育を考えるためには、漢字のみならず、語にも注目し、造語成分としての漢字の教育を考えることが重要である。

成人の日本語母語話者（以下、「母語話者」とする）は語の意味を知っており、また母語としての漢字や語の知識を体系的に持っているため、普段、二字漢語を構成漢字ごとに分解することはないだろう。また、構成漢字それぞれの意味を明確には説明できなくても、何となく語の意味と漢字が結びつくようなイメージを持つこともあるだろう。

しかし、母語の文字体系に漢字がなく、1字ずつ漢字を学び、漢字と語を並行して学んでいる学習者から見れば、漢字2字が組み合わさった二字漢語の意味は、初めて見る語でも構成漢字の一般的な意味と容易に結びつくものがある一方で、結びつきにくいものもあることが予想される。そのため、語の意味を理解するための漢字教育を考えるためには、二字漢語の透明性という観点が重要であると考えられる。

・ 日本語学における「二字漢語の透明性」

日本語学において、二字漢語の透明性に関する情報は多くない。現代の日本語において漢字がどのような役割を果たしているかという漢字の機能についての研究は数多く行われており、漢字の表意機能において本研究の透明性と同様の特徴が指摘されているが、例として挙げられている語数が少なく、

一般によく目にする二字漢語の透明性の実態は明らかではない。また、語構成の研究では二字漢語を対象にした数多くの分析が行われているが、構成漢字に分解できない語については、存在は指摘されながらも、考察からは除外されており、実態は明らかではない。そこで、本研究では、まず、量的な傾向を捉えることにより二字漢語の透明性の実態を分析する。次に、この分析結果を用いて、日本語教育への応用を検討することとする。

また、日本語教育への活用を念頭に二字漢語の透明性の実態を分析する場合、非漢字系学習者が二字漢語の透明性をどのように捉えているかという視点も必要である。そこで、本研究では、辞書を用いた調査と、非漢字系学習者を含めた人を対象にした調査の2つの調査によって、二字漢語の透明性の実態を分析していく。

・本研究の特徴

本研究の特徴は以下の5点である。

1. よく目にする語としてコーパスにおいて高頻度の二字漢語を研究対象とした点
2. 二字漢語および構成漢字の意味を、その語源や字源にさかのぼらずに現在の一般的な意味で捉えた点
3. 二字漢語の意味とその構成漢字の意味が結びつく際の結びつき方に、新たに「仲介語」を導入し、造語成分としての漢字の表意性を整理した点
4. 「辞書による透明性の調査」と非漢字系学習者を含めた「人の判断による透明性の調査」の2つの調査方法を用いて二字漢語の透明性にアプローチした点
5. 二字漢語の透明性についての量的な調査結果をもとに、日本語教育で活用できる情報および活用案を示した点

・本研究の構成

本研究の構成は次の通りである。本研究は第1部(1～7章)と第2部(8～11章)から成る。第1部「二字漢語の透明性の実態」では、量的な調査によって、二字漢語の透明性の実態と特徴を分析、考察する。第2部「二字漢語の透明性の日本語教育への応用」では、第1部で得られた知見を非漢字系学習者への漢字教育にどのように生かせるか、その可能性を検討する。

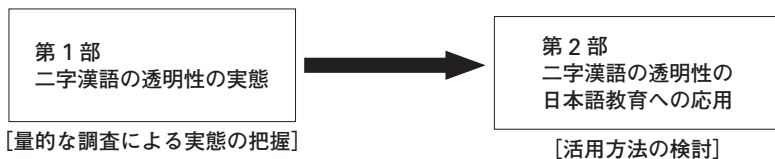


図1 第1部と第2部の関係

第1部では、書き言葉における二字漢語の透明性の実態を明らかにすることを目的に、辞書およびコーパスを用いた透明性の調査、日本語母語話者および非漢字系学習者を対象に行った透明性の調査の2つの調査結果を軸に考察を進める。図2は第1部の概要である。

【第1部】

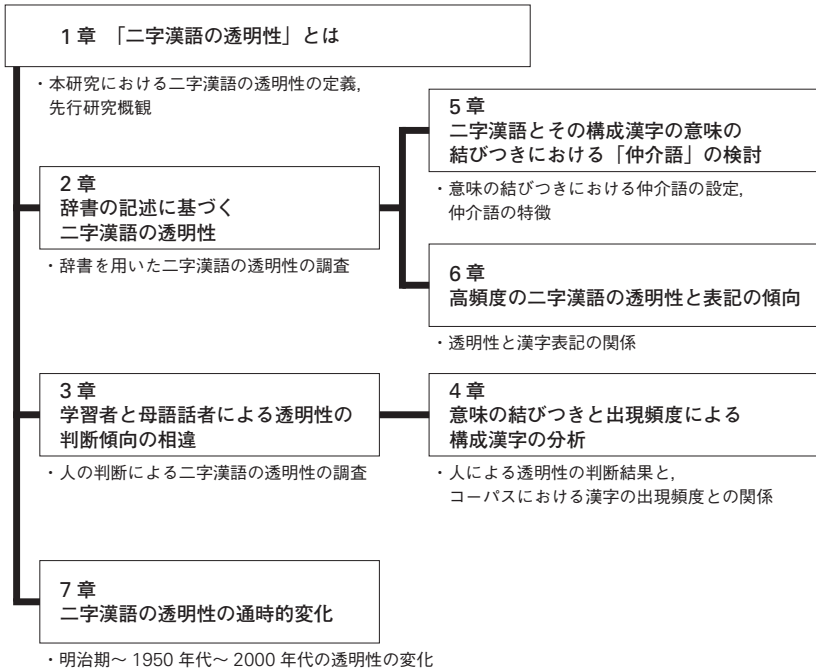


図2 第1部「二字漢語の透明性の実態」の概要

次に、図3は第2部「二字漢語の透明性の日本語教育への応用」の概要である。第2部では、第1部の調査で得られた知見をもとに、二字漢語の透明性がどのように日本語教育に活用できるかを検討する。図3には第1部の章の調査結果との関係も示した。

【第1部】

【第2部】

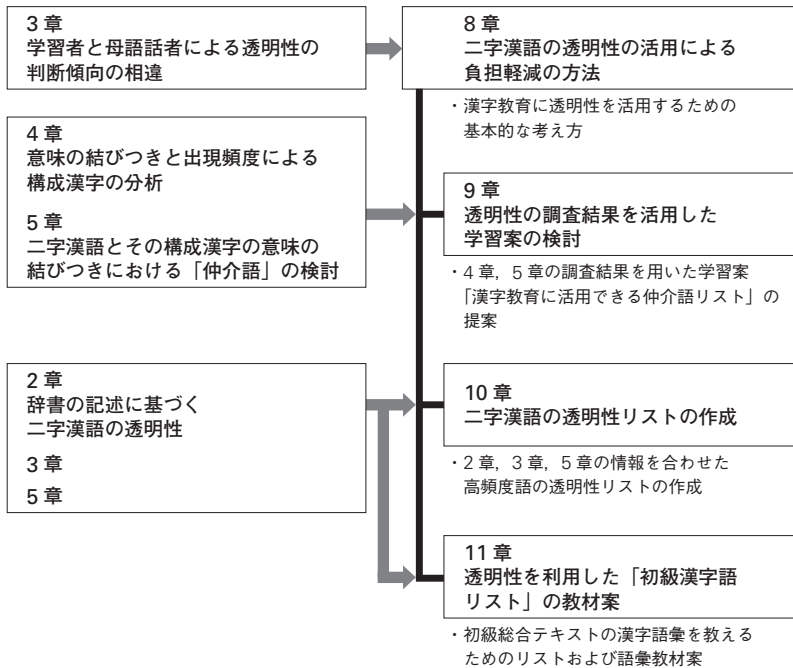


図3 第2部「二字漢語の透明性の日本語教育への応用」の概要